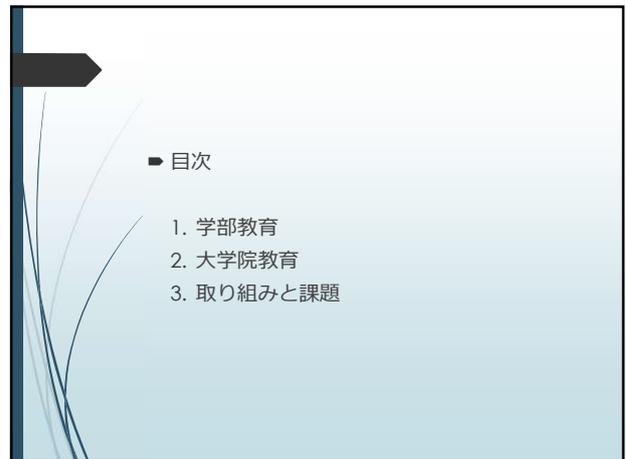




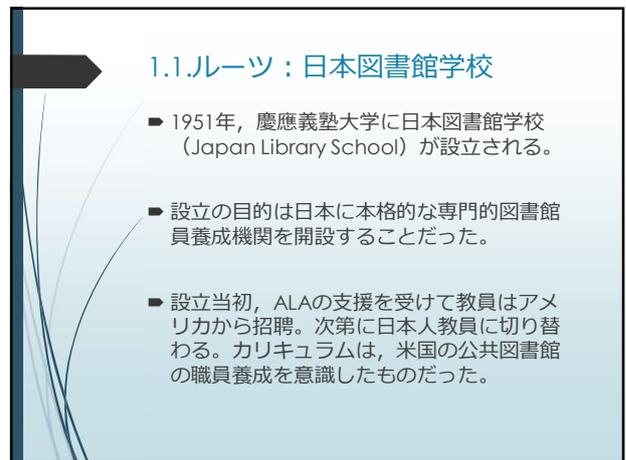
1



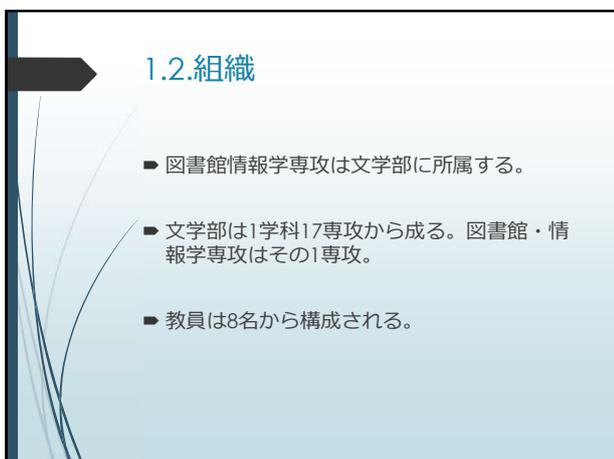
2



3



4



5

文学部	
哲学系	中国文学
哲学	英米文学
倫理学	独文学
美学美術史学	仏文学
史学系	図書館・情報学系
日本史	図書館・情報学
東洋史	人間関係学系
西洋史	社会学
民族学考古学	心理
文学系	教育
国文学	人間科学

6

名前	専門
根本彰	教育文化情報論
倉田敬子	学術コミュニケーション
谷口祥一	情報組織化、情報資源組織化
岸田和明	情報検索
池谷のぞみ	エスノメソドロジー、情報行動、知識の社会学、サービスデザイン
安形麻理	書誌学
松本直樹	情報システム経営
木村麻衣子	情報資源組織化

7

- 最終校または学位取得校での専門分野は、図書館・情報学5名、教育学2名、社会学1名である。また、3名が図書館勤務の経験がある
- 図書館・情報学専攻の学士課程を修了すると、学士(図書館・情報学)を取得

8

1.3.入学と所属

- 図書館・情報学専攻の学士課程で学ぶには慶應義塾大学文学部に入学する必要がある。
- 1年次で文学部共通の科目を履修した後、2年次進学時に希望を提出して図書館・情報学専攻に所属する。
- 1学年の最大受け入れ数は60名である。2018年4月1日現在の学生数は、第2学年48名、第3学年40名、第4学年47名。

9

1.4.教育

- ディプロマポリシーでは「個人や機関、団体などにより、生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面」を学修し「情報の視点から問題を発見し自ら解決できる総合的な能力の修得をめざす」等とある。
- 図書館職員養成を目指しているわけではない。

10

【図書館・情報学専攻】

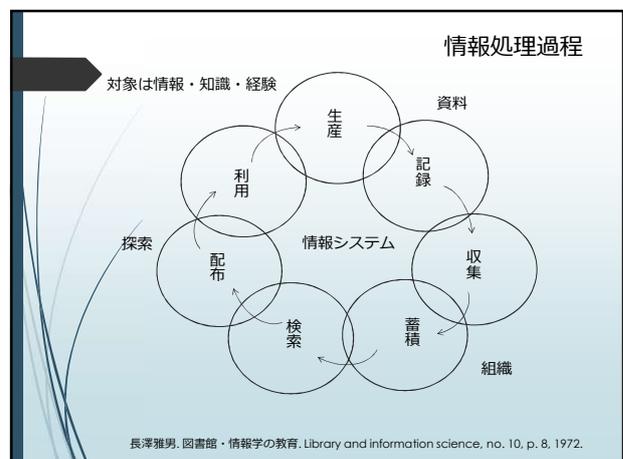
<卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

学士(図書館・情報学)の学位を、以下のような資質と能力を有する者に授与する。個人や機関、団体などにより、生産され記録された経験や情報、知識について、その流通・組織化・提供・利用・保存・制度など諸側面の基礎的な知識の学修を通じて、情報の視点から問題を発見し自ら解決できる総合的な能力の習得をめざす。

そのため、特に次のような資質形成と能力開発により、社会のさまざまな場面で幅広く活躍できる人材を育成する。

- ・ 特定テーマから広範な分野にいたるまで文献と情報を検索、収集、分析する能力
- ・ コンピュータをはじめ情報機器・情報メディアを活用する情報処理能力
- ・ 図書館司書としての基礎的資質と情報専門職としての基盤形成
- ・ 日本語と英語による専門文献の読解能力
- ・ 効果的なプレゼンテーション能力および論理的な文章表現能力

11

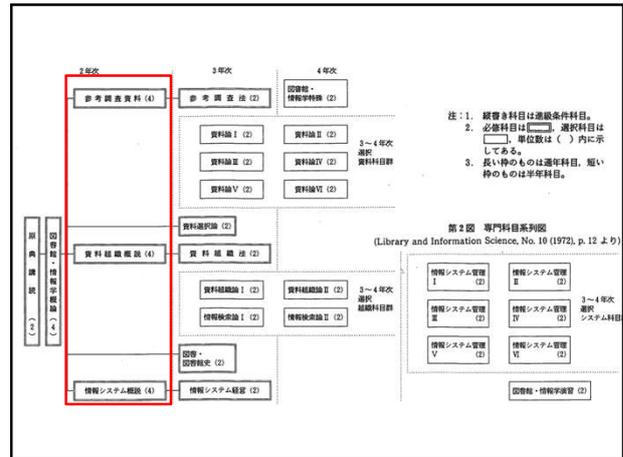


12

カリキュラムの発展

- 1972年、情報学を含む基礎、資料系列、資料組織系列、情報システム系列の各科目群からなる新カリキュラムに改定。
- 1993年、科目群を再度整理して図書館・情報メディア・情報検索の3コースを設ける。学生は3年次以降、コースごとに科目を受講

13



14

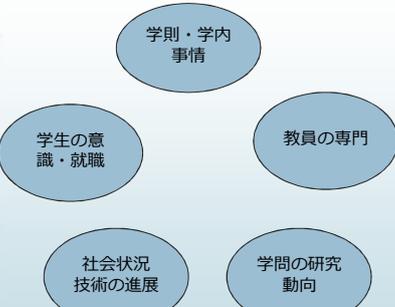
学年	授業科目名(単位)	単位数
2年次	図書館・情報学基礎(2)	20
	調査法(2)	
	情報サービス基礎(2)	
	情報検索基礎(2)	
3年次	図書館・情報学研究法(2)	14
	卒業論文	
4年次	図書館コース	28
	情報メディアコース	
	情報検索コース	
	図書館概論(2)	
	図書館の発展と歴史(2)	
	コミュニケーション史(2)	
	図書館資料論(2)	
	情報組織論(2)	
	レファレンス・サービス論(2)	
	図書館実習(2)	
	図書館実習II(2)	
	図書館実習III(2)	
図書館実習IV(2)		
のうち、2科目4単位以上		
情報メディアコース	情報メディア概論(2)	14
	情報メディアの構成と分析 I~II(各2)	
	情報検索の基礎(2)	
	情報検索システム(2)	
	情報検索研究(2)	
	データベース概論(2)	
	情報処理技術(2)	
	情報メディア特論I(2)	
	情報メディア特論II(2)	
	情報メディア特論III(2)	
	情報メディア特論IV(2)	
	のうち、2科目4単位以上	
情報検索コース	情報検索概論(2)	14
	情報検索の基礎(2)	
	自然言語処理の基礎(2)	
	高度・映像処理の基礎(2)	
	レファレンス・サービス論(2)	
	情報検索の基礎(2)	
	情報メディアの構成と分析 I・II(各2)	
	情報検索特論(2)	
	のうち、2科目4単位以上	

15

学年	必修科目	選択科目	卒業論文
2年次	図書館・情報学基礎(2)	図書館概論(2)	卒業論文(卒業論文)
3年次	図書館・情報学研究法(2)	卒業論文(卒業論文)	
4年次	図書館コース	情報メディアコース	情報検索コース
卒業論文	卒業論文(卒業論文)	卒業論文(卒業論文)	卒業論文(卒業論文)

16

教育内容の変化の要因



上田修一(1990)などをもとに作成

17

- ゼミは3年次秋学期から始まり(図書館・情報学研究法), 4年次も同じ教員のゼミに所属する(図書館・情報学研究会)。
- 卒業論文は全員が必修で, 4年次夏休みに全教員と学生が参加する中間発表会で発表を行う。論文提出後は, ゼミの指導教員ともう一人の教員が標準審査票を用いて審査を行う。その後, 2月に面接を実施し教員全員で評価を決定

20

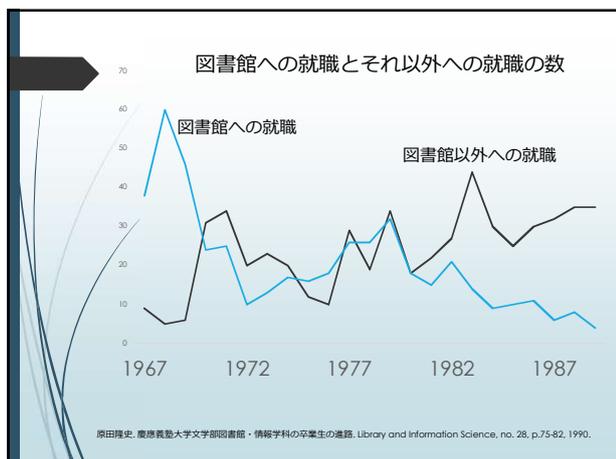
- 情報管理
 - ゲームソフトウェアを資料として扱う為のメタデータスキーマの構築
 - スタートアップ企業におけるビジネスモデル特許検索の実態
 - テキストマイニングを用いた宿泊予約サイトクチコミにおける特徴語の同定
 - Twitter上のデータを用いた機械学習による株価予測
 - Twitterを用いた観光ルートの構築
- 情報メディア
 - 専門事典としての日本語版Wikipedia
 - 医療相談サイトでなされる相談とは: がんカテゴリの分析
 - 文庫本の小説の帯の特徴と出版社のねらい
 - 現代におけるブックカバーの多様性
 - SNSにおける「自己開示」および「自己表示」への人間関係の影響
- 図書館
 - 特定機能病院における患者図書室の実態調査
 - 絶版書籍の所蔵からみる公共図書館の蔵書における公共性
 - 公共図書館の民間施設との連携
 - 学校図書館における選書ツアーの位置づけ
 - 慶應義塾大学病院患者図書室「健康情報ひろば」における、患者支援の分析

21

1.5.進路

- 卒業生の進路は、図書館関連では、国立国会図書館、大学図書館、専門図書館、公立図書館などがある。他にシンク・タンク等の情報サービス業、新聞社などのマスコミ、出版社などの出版流通関係。
- SE、システムインテグレータやコンピュータ・ソフト関連の情報通信産業、企業の一般事務職・営業職等もいる。

22



23

2. 大学院教育

24

2.1.歴史: 大学院の発足

- 1967年、情報の処理に重点を置いた大学院（修士課程）が設置される。1975年、後期博士課程が設置される。
- 大学院課程の充実により学科（専攻）の研究の中心は「情報学」研究に。
- 大学院は修士課程発足当初から「図書館・情報学」という名称を使用（学士課程は1968年から）

25

情報資源管理分野の開設

- 2004年、社会人向けコース。
- 高度な情報専門職は大学院でリカレント教育として行う。
- 特に図書館経営の中核を担うような人材の育成を目指す。

26

2.2.組織

- 大学院の修士および後期博士課程は、文学研究科に所属。
- 文学研究科は9専攻16分野から構成されており、図書館・情報学専攻は1専攻・2分野。
- 図書館・情報学専攻の大学院には、図書館・情報学分野（修士および後期博士課程）と情報資源管理分野（修士課程）の2分野がある。

27

文学研究科	
哲学・倫理学専攻	哲学分野, 倫理学分野
美学美術史学専攻	美学美術史学分野, アート・マネジメント分野
史学専攻	日本史学分野, 東洋史学分野, 西洋史学分野, 民族学考古学分野
国文学専攻	国文学分野, 日本語教育学分野
中国文学専攻	
英米文学専攻	
独文学専攻	
仏文学専攻	
図書館・情報学専攻	図書館・情報学分野, 情報資源管理分野

28

- 専任教員は8名であるが、修士・博士の学位論文の指導にあたるのは、文学研究科委員の5名。

29

修了要件

- 修士課程の修了要件は、32単位以上の科目の修得と修士論文の合格。
- 修士論文作成にあたっては、4回にわたり中間発表会で、全教員と大学院生の前で論文の進捗状況を発表。論文提出後には、主査1名、副査2名の教員による審査と全教員が参加する口頭試問が行われる。
- 後期博士課程は、博士論文を提出し学位を取得。

30

修士（2分野）の近年の修士論文（例）	
領域	タイトル
図書館経営	アメリカ図書館経営史
公共図書館	地域行政資料の共有における図書館機能: 日野市政図書館を中心に
	地方自治体の政策過程における影響力構造: 図書館行政を中心として
大学図書館	米国の公共図書館におけるIRサービスの変遷
	地方公共団体における市民協働の政策立案と公立図書館
学校図書館	大学図書館の規模と大学の研究・教育成果との関係のモデル化
	慶應義塾図書館におけるレファレンスサービスの発展
電子書籍・電子図書館	高等学校における探求型学習と学校図書館
	医学生への学習におけるデジタル情報源の利用
デジタルアーカイブ	中国における電子書籍の発展とその要因
	韓国・米国・日本の公立図書館における電子書籍サービスの普及とその要因
資料の組織と管理	国立図書館のデジタル化に関わる文化的要因
	電子図書館のユーザビリティ評価
情報検索	日本における図書館システムの導入・運用に関する課題
	デジタルアーカイブにおける画像コンテンツのファインダビリティ
学術情報	中国における古典籍のデジタルアーカイブの現状
	国立図書館のデジタル化に関わる文化的要因
リテラシー	英米における西洋古典籍目録の作成規則の変遷
情報検索	認知のコミュニケーションから捉えなおす「著作」概念
	大学図書館における無縁綴じ図書館の模倣とその対応
学術情報	階層的クラスタリングを用いたタームシロジの自動構築
	機械学習手法を用いたネット小説の「印象」の自動推定
リテラシー	中国の大学における研究者の電子ジャーナル利用
リテラシー	歴史学研究における原資料デジタル化の影響
リテラシー	文系大学生のコンピュータリテラシー: 操作スキルの観点から

31

- 図書館・情報学専攻の修士課程を修了すると、修士（図書館・情報学）を、後期博士を修了すると、博士（図書館・情報学）を取得する。

32

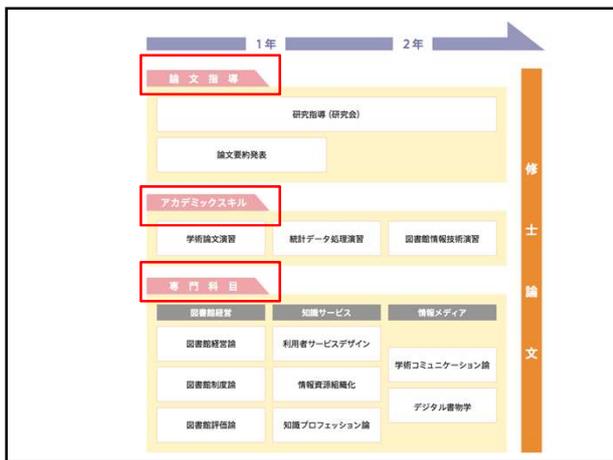
修士課程の科目

- 図書館・情報学分野では、情報学、情報メディア、情報管理、情報システムの各科目群を柱とし、ほかに共通スキル科目を提供。必修の論文指導をする研究会および抄読会の科目も組み込まれている。
- 情報資源管理分野では、図書館運営とそれに必要な情報技術、最近の図書館における動向を中心とした実務者向けの科目と、論文指導の研究会、抄読会、アカデミックスキルの必修科目を提供。

33



34



35

2.3.入学

- 図書館・情報学専攻の大学院課程で学ぶには、慶應義塾大学文学研究科に入学する必要がある。
- 図書館・情報学分野修士課程の出願資格は大学学部卒業（見込み）で、司書資格の有無や卒業学部についての制約は一切ない。
- 情報資源管理分野修士課程の出願資格は大学卒業後3年以上と、図書館等における実務経験または司書資格である。
- 図書館・情報学分野後期博士課程の出願資格は大学院修士課程修了（見込み）である。

36

2.4.定員と進路

- 修士課程の1学年の定員は20名、後期博士課程は5名である。2018年4月1日現在の学生数は、修士課程の図書館・情報学分野4名、情報資源管理分野15名、後期博士課程は5名である。
- 図書館・情報学分野修士課程の修了者は、国立国会図書館、国立および私立大学の図書館、ICT関係などの民間企業に就職するもの、研究者になるために博士課程に進むもの、などがある。

37

図書館・情報学分野（修士）

年度	入学者数	修了者数
2018	1	
2017	3	1
2016	1	2
2015	2	4
2014	3	1
2013	1	1
2012	3	2
2011	2	5
2010	2	2
2009	2	5
2008	5	1
2007	3	5
合計	28	29

38

情報資源管理分野（修士）

年度	志願者数	入学者数	入学者の内訳			
			大学	公共	その他	うち嘱託、等
2018	13	8	2	3	3	2
2017	8	5	2	2	1	2
2016	12	9	2	4	3	2
2015	12	8	5	3	0	1
2014	14	7	2	1	4	1
2013	13	8	2	0	6	1
合計	72	45	15	13	17	9

39

- ▶ 情報資源管理分野の修了者は、現職に留まるものが多い。
- ▶ 博士課程の修了者は、修了あるいは単位取得退学後、現職を持つものはそれを続けるものと研究職に転じるものがある。現職を持たないものは研究職につく傾向がある。

40

3.取り組みと課題

41

- #### 文学部・大学への貢献
- ▶ 学部，大学の貢献により，専攻の存在をアピールすることが重要
 - ▶ 学部の総合教育科目として設置されている「情報処理」関連科目を専攻で担当。教職科目の教科「情報」の必修科目。
 - ▶ ウェブ，表計算等，情報リテラシー，レポートの書き方などを教育。
 - ▶ ほぼ全ての文学部学生が受講。

42

- #### 課題
- ▶ 学位（博士号）授与者の増加
 - ▶ 「慶應義塾大学 博士（図書館・情報学）」はこれまで8名
 - ▶ 大学院の充実，博士号授与に至る仕組みづくりなどが課題
 - ▶ 教育の質保証
 - ▶ 機関別認証からプログラムの質保証への動き
 - ▶ iSchool，教育の質保障と相互認証の動き（IFLA，EU），国際的ガイドライン（IFLA，etc.）

43

- #### 主な参考文献
- ▶ 小林胖. 大学院カリキュラムの改訂とその将来への投影. Library and information science no. 10, p. 13-18, 1972.
 - ▶ 長沢雅男. 図書館・情報学の教育. Library and information science, no. 10, p. 1-12, 1972.
 - ▶ 図書館・情報学科カリキュラム委員会. 慶應義塾大学図書館・情報学科のカリキュラムの現状. Library and information science, no.11, p. 1-62, 1973.
 - ▶ 図書館・情報科学カリキュラム委員会. 慶應義塾大学図書館・情報科学のカリキュラムの現状-2完-. Library and information science, no. 12, p. 275-297, 1974.
 - ▶ 上田修一. 慶應義塾大学文学部図書館・情報学科のカリキュラムの変遷. Library and Information Science, no. 28, p. 25-74, 1990.
 - ▶ 高山正也. 慶應義塾大学図書館学科創立に関する主要資料の解説. Library and Information Science, no. 28, p. 9-24, 1990.
 - ▶ 高山正也. 慶應義塾大学文学部図書館・情報学科にみる図書館学教育の変遷と展望. 図書館雑誌 vol. 89, no. 6, p. 426-431, 1995.
 - ▶ 日本図書館情報学会図書館情報学教育に資する事業ワーキンググループ. 図書館情報学教育の拡がりとその後の方向性に関する調査報告書, 132p, 2017.

45